

# 「みえを知る旅Ⅶ」

## 参加者募集!!

榊原のお風呂にゆったりつかって、  
三重の歴史を学びませんか。

「日本人の心のふるさと」とも称される伊勢の神宮。都から伊勢の入口に湧く榊原温泉は、古くより伊勢参拝に際し、身を清める“湯ごり”の地としての役割も担ってきました。

このことをもとに令和4年（2022年）から湯元榊原館では、“美肌の湯”として親しまれている温泉入浴とセットで「みえを知る旅」を企画し、三重の歴史・文化等について研究されている方々を講師に迎え、学ぶ場を開催してきています。

これまで6シリーズ（1シリーズは全6回）を開催いたしました。Ⅰは伊勢神宮を中心に（令和4年5月～同年8月）、Ⅱは南勢編（令和4年10月～令和5年2月）、Ⅲは三重の女性編（令和5年4月～同年9月）、Ⅳは北勢編と伊賀を中心に（令和5年10月～令和6年3月）、Ⅴは北勢・伊賀の続編のほけ受講者の皆さんからの提案を企画化、Ⅵは全体を通して2つのエリアも意識して、体験視察も取り入れました。8月の講話を踏まえ、熊野古道1日バスツアーの実施（11月16日）。「みえを知る旅」3周年企画事業として、「MieMuおよび桑名市博物館企画展見学会と桑名史跡巡り」を開催しました。

### シリーズ企画事業

- ・伊賀“芭蕉・城下町散策”バスツアー企画（詳細は、第1回開催時にご案内させていただきます）。

### 第1回 「古墳時代ー伊賀成立前夜ー」

講師 伊賀市教育委員会事務局文化財課文化財係 清山 隆先生

開催日 令和7年4月28日（月） 10:00～12:00

「伊賀」とは何か。その一端は、東の隣国である伊勢地域との対比を通じてみることができます。それは同時に、伊賀との対比を通じて「伊勢」を知ることもあるでしょう。古墳時代、西の隣国である大和地域の集団が日本列島の政治・文化の中心となっていく中で、「伊賀」が伊勢とも異なるひとつの地域として成熟していく様子を、伊勢の古墳文化と比較しながら見ていきたいと思います。

### 第2回 「国宝となった松阪宝塚1号墳の“はにわ”」

講師 松阪市産業文化部文化課 松阪市文化財センター所長・学芸員 福田 哲也先生

開催日 令和7年5月26日（月） 10:00～12:00

伊勢平野最大の前方後円墳で、国指定史跡の宝塚1号墳。古墳公園として整備される前に、平成11年から国の指導により発掘調査を実施。調査の結果、前例のない船の上に威儀具を立て並べた日本最大級の船の埴輪などが出土し、その歴史的価値から、当初から学者の方々から国宝級の発見と言われていましたが、昨年8月に正式に国宝に指定されました。今回、その278点の埴輪群の意味について語ります。

### 第3回 「三井高利と越後屋商法」

講師 NPO 法人松阪歴史文化舎理事長

旧長谷川治郎兵衛家、旧小津清左衛門家、原田二郎旧宅の指定管理者 門 暉代司先生

開催日 令和7年6月16日（月） 10:00～12:00

三井越後屋創業の祖三井高利（1622～94）は、松坂本町の商家に生まれ、52歳の時に江戸に呉服店、京都に呉服仕入店を開店すると、やがて「現銀・正札・掛値なし」・店先売り・切売り等のアイデア商法でもって、日本一といわれるまでの大商人になりました。高利没後、三井越後屋は子どもたちの商才によりますます発展し、江戸時代中期には江戸・京都・大坂・松坂で呉服店と両替店を合わせて15店舗構え、奉公人は約1000人を数えました。また明治以降は、住友・三菱とともに「日本三大財閥」と称され、銀行業を中心にあらゆる産業界に進出しています。

※裏面に続く



講座では、三井越後屋の斬新な商法とともに、高利が子どもたちに遺した教訓などに触れながら、高利の偉業をご紹介します。

## 第4回 「〈街道文化遺産〉としての日本最古の紙幣「山田羽書」

ー地域通貨史からみた近世三重の経済の仕組みー

講師 中京大学大学院等非常勤講師 千枝 大志先生

開催日 令和7年7月14日(月) 10:00~12:00

近世日本の通貨構造は、主に徳川幕府が発行した金属貨幣(金・銀・銭)からなる「三貨制度」のほか、各藩発行の「藩札」と、そのルーツとされる商人発行の「私札」といった紙幣により成立・展開したといえます。つまり、近世の通貨制度は金属貨幣の統一性と紙幣の地域性が共存することで機能したといえるでしょう。

ところで、日本貨幣史からすると、三重県は全国的にみても重視されています。それは「山田羽書」と呼ばれた伊勢神宮の外宮門前町山田(現三重県伊勢市)で誕生した私札が、日本最古の紙幣として位置づけられているからであり、慶長15年(1610)の山田羽書が現存しています。山田羽書の影響や歴史的意義と合わせ、三重圏域の街道筋の経済構造について、考えてみたいと思います。

## 第5回 「木下長嘯子と芭蕉 I」

講師 中部大学人文学部日本語日本文化学科教授 岡本 聡先生

開催日 令和7年8月18日(月) 10:00~12:00

「木下長嘯子は江戸時代初期の歌人です。長嘯子は豊臣秀吉の室、北政所の兄家定の長子であり、秀吉時代には若狭小浜城主でした。関ヶ原の戦いの後京都の東山や西山に隠棲し、そこには安楽庵策伝、松花堂昭乗、小堀遠州、松永貞徳他近世初期の錚々たる人脈が出入りしていました。芭蕉に「長嘯の墓もめぐるか鉢たたき」という句があり、長嘯子の和歌、和文が芭蕉や蕉門への影響も確認されています。また、長嘯子の東山の山荘での生活を描いた「(東山)山家記」の中で、「やがて爰を半日とす」という文章を受けて、芭蕉は『嵯峨日記』の中で、「長嘯隠士の曰、客は半日の閑を得れば、主は半日の閑をうしなふと、素堂此ことばを常にあはれぶ」と記しています。今回の講演では、長嘯子から芭蕉への影響についてお話していきます。

## 第6回 「上富良野 開拓の草分け 田中常次郎から吉田貞次郎へ」

講師 三重郷土会常任理事 浅生 悦生先生

開催日 令和7年9月22日(月) 10:00~12:00

富良野・・・、美しいラベンダーが咲き誇る大地、広大な丘をイメージするだろう。しかし、この美しい景観の裏には、言葉では言い尽くせない苦難の歴史があった。

移住の決断と原野開拓には、開拓の祖・津市納所出身の田中常次郎らの悪戦苦闘の姿があった。しかし、移植地は30年後の十勝岳大爆発の泥流で一瞬にて埋没する。この時、復興へ決断したのが一身田出身の吉田貞次郎であった。血を吐くが如き熱烈な希望で取り組み、「模範村長」とも評された人物である。上富良野開拓の草分けの二人と、三重県の人々の苦闘と感動の歴史を学習しよう。

主催 湯元榊原館

連携・協力 道の駅 津かわげ

会場 湯元榊原館(津市榊原町 5970 番地)  
(安全面への配慮から変更となる場合があります)

募集 定員 70 名(先着順)

受講料 6回一括 7,500 円(企画調査費等経費を含む)  
※6回分の日帰り温泉入浴料を含む(有効期限付き)

申込方法 チラシ等掲載のQRコードから。  
または別紙申込書にてFAXにてお申し込みください。  
FAX 059-252-0792(湯元榊原館 担当 藤田まで)

締切 4月18日(金)

※申込書は、湯元榊原館・道の駅 津かわげ・津市観光協会・三重県観光連盟に置いてあります。

連絡先 湯元榊原館 TEL 059-252-0206(担当 前田・藤田)

# 「みえを知る旅Ⅶ」 参加申込書

- 第1回 「古墳時代―伊賀成立前夜―」 講師 清山 隆先生  
開催日 令和7年 4月28日（月）10:00～12:00
- 第2回 「国宝となった松阪宝塚1号墳の“はにわ”」 講師 福田 哲也先生  
開催日 令和7年 5月26日（月）10:00～12:00
- 第3回 「三井高利と越後谷商法」 講師 門 暉代司先生  
開催日 令和7年 6月16日（月）10:00～12:00
- 第4回 「〈街道文化遺産〉としての日本最古の紙幣「山田羽書」  
―地域通貨史からみた近世三重の経済の仕組み―  
講師 千枝 大志先生  
開催日 令和7年 7月14日（月）10:00～12:00
- 第5回 「木下長嘯子と芭蕉Ⅰ」 講師 岡本 聡先生  
開催日 令和7年 8月18日（月）10:00～12:00
- 第6回 「上富良野 開拓の草分け 田中常次郎から吉田貞次郎へ」  
講師 浅生 悦生先生  
開催日 令和7年 9月22日（月）10:00～12:00
- 会場 湯元榊原館（津市榊原町 5970 番地）  
（安全面への配慮から変更になる場合があります）
- 会費 6回一括 7,500 円 ※6回分の日帰り温泉入浴料含む（期限付き）
- 募集 定員 70 名（先着順）
- 締切 令和7年4月18日（金）

|      |         |                                       |
|------|---------|---------------------------------------|
| お名前  |         | ふりがな                                  |
| ご住所  |         |                                       |
| ご連絡先 | 携帯電話番号  |                                       |
|      | メールアドレス | ※SMS（ショートメッセージ）等、今後のお知らせ等に使用させていただきます |

※ 送り先 FAX 番号 059-252-0792（湯元榊原館 担当 藤田まで）